

1. 事業細目	淡水真珠緊急対策試験研究費（原因究明調査研究）	予算額	10,000 千円
2. 研究名	イケチョウガイの地蒔による成育比較試験	予算区分	県単
3. 研究期間	62年度～ 年度		
4. 担当者	太田、氏家、高橋		

5. 目的 近年のイケチョウガイ真珠養殖における成長不良、斃死多発現象に対応する方法の一つとして、地蒔によって貝の成長・歩留り向上を図る。

6. 方法

(1) 試験期間……昭和62年6月から9月下旬までの約4ヶ月。

(2) 試験水域……西の湖（真珠母貝組合漁場内）、水産試験場10－3号池、志那沖の3水域。

(3) 収容方法と供試貝……地蒔区——図1。対照としての垂下区——図2。供試貝——水産試験場10－3号池に収容していたイケチョウガイ2年貝（開始時の殻長51～54mm、同重量8.1～11.1g）1区分30個。

7. 結果の概要

(1) 志那沖の地蒔区において事故のため、供試貝が散逸し回収不能になった。

(2) 西の湖の地蒔区の生残率が93%と高く、対照区の生残率40%に比べて大きな開きがあった。成長率では差は見られず、他の水域の50～70%増に比して10～20%と低い値であった。（西の湖の対照区の成長率19%という値は、恐らく小さい個体が斃死したために終了時の平均重量値が押し上げられた結果であろう。）

(3) 水産試験場10－3号池では、両区の間には大きな違いはないが、成長・歩留りともやや地蒔区が良かった。

8. 主要成果の具体的数値

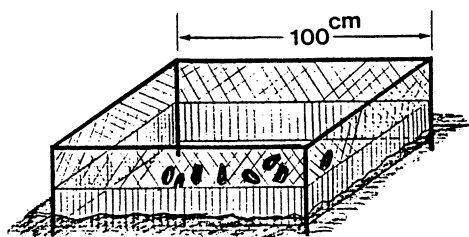


図 1 地蒔の方法

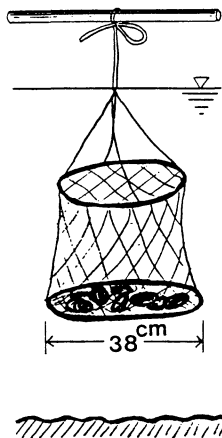


図 2 垂下の方法
(対照区)

表 地蒔による成長歩留まり比較試験

試験期間 6月6日から9月下旬

水域名		開始時	終了時	増減率	歩留まり
水試10-3	地蒔 殻長	50.8mm	58.6mm	15.4%	90%
	重量	8.74±2.38 g	15.07±5.05g	72%	
	対照 殻長	50.5mm	57.9mm	14.7%	77%
	重量	8.59±2.41 g	14.24±5.76 g	66%	
西の湖	地蒔 殻長	52.0mm	54.5mm	4.8%	93%
	重量	9.66 g	10.68 g	11%	
	対照 殻長	49.5mm	52.1mm	5.3%	40%
	重量	8.07 g	9.58 g	19%	
支那冲	地蒔 殻長	mm	不明	—	—
	重量	g		—	
	対照 殻長	53.6mm	60.4mm	12.7%	77%
	重量	11.15 g	16.82 g	51%	

9. 今後の問題点

- (1) 地蒔可能な適地のリスト・アップと地図作成。
- (2) 地蒔方法（仕切りと散逸防止法、取揚方法、管理法等）の検討。
- (3) 他の貝類との競合、アオコ発生による影響の有無。（特に南湖漁場において）

10. 次年度の具体的計画